

2024年5月19日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒216番（KH 姉）

『キリストには代えられません』

聖書⇒使徒言行録 2 編 1~11、17a~b 節（MM 姉）

『五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

『神は言われる。終わりの時に、／わたしの霊をすべての人に注ぐ。』

礼拝讃美歌⇒200番（旧 125、174 番曲）

『雲なきその日』

聖書⇒詩編 22 編 2~6 節（NH 兄）

『わたしの神よ、わたしの神よ／
なぜわたしをお見捨てになるのか。
なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず／
呻きも言葉も聞いてくださらないのか。
わたしの神よ／
昼は、呼び求めても答えてくださらない。』

夜も、黙ることをお許しにならない。
だがあなたは、聖所にいまし／
イスラエルの賛美を受ける方。
わたしたちの先祖はあなたに依り頼み／
依り頼んで、救われて来た。
助けを求めてあなたに叫び、救い出され／
あなたに依り頼んで、裏切られたことはない。』

聖書⇒マタイによる福音書 27 章 45~46 節

『さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。』

礼拝讃美歌⇒117 番（旧 149 番）

『カルバリの丘の辺に』

by James George Deck

（祈）

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 10 章 16~17 節（KH 兄）

『わたしたちが神を賛美する賛美の杯は、キリストの血にあずかることではないか。わたしたちが裂くパンは、キリストの体にあずかることではないか。パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つの体です。皆が一つのパンを分けて食べるからです。』

（式）

礼拝讃美歌⇒148 番（旧 94 番）

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒レビ記 23 章 10~11 節 (HK 兄)

『イスラエルの人々に告げてこう言いなさい。わたしが与える土地に入って穀物を収穫したならば、あなたたちは初穂を祭司のもとに携えなさい。祭司は、それを主に受け入れられるよう御前に差し出す。祭司は安息日の翌日にそれを差し出さねばならない。』

聖書⇒使徒言行録 2 編 1~4 節

『五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。』

聖書⇒マタイによる福音書 16 章 24 節

『それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 3 章 26~28 節 (KH 兄)

『あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。』

礼拝讃美歌⇒30 番 (旧 54 番)

『声も高く』

《建徳要旨》